

カービング 入門編



タイ式野菜・フルーツカービングがいつ頃から存在するのか、公文書での記録はありませんが、スコタイ王朝時代(13世紀半ば～15世紀半ば頃)から約700年以上の歴史を持つタイの伝統芸術であると言われています。家財道具等の木彫りから始まり、後に野菜や果物を使うようになりました。野菜・フルーツカービングは、当初は宮廷内の女性達の結婚前のたしなみの一つとして定着し、その後徐々に一般人へと広まり、タイを代表する文化へと発展していきました。

現在、カービングは、2種類に大別されます。一つは金属や木などの硬い素材を使う、主に男性が行うカービング、もう一つは野菜・フルーツ・石鹸等柔らかい素材を使う、主に女性が行うカービングで、後者の野菜・フルーツカービングは料理におもてなしの心を添える飾りつけとして独自の分野として確立し、主には花や葉っぱをモチーフにしています。

タイ式野菜・フルーツカービングで使用する道具



果物ナイフ:

野菜や果物をカットし、カービングに入る前の原形を作ります。通常は薄刃の刃渡り10cm程度のペディ・ナイフを使用しますが、包丁でも代用できます。

カービング用ナイフ:

様々な種類がありますが、クラスでは刃渡り約3cm、刃幅約0.5cmの曲線形状のナイフを使用します。刃は薄く、刃先は尖っています。

ピーラー:

野菜の皮むきに使用しますが、包丁で代用できます。

まな板:

野菜や果物の下処理に使います。

その他、作業テーブルを傷つけないための受け板等があると便利です。

カービングナイフの握り方



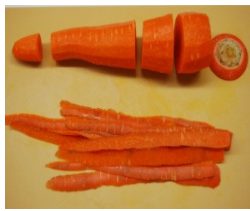
鉛筆持ちをします。利き手の親指と人差し指の間の水かき部にナイフの柄を乗せ、中指の内側に刃の部分を添えます。親指と人差し指で柄を握ります。

細かい模様を彫るため、指さし型、握り型などの握り方は適しません。

模様の入った葉っぱのカービング

葉っぱのカービングには様々な模様・形がありますが、今回は簡単なものを学習します。
カービングナイフの刃先を刺しこんで、野菜に簡単な模様をつけていきます。

手順



にんじんの皮をむき、写真のようにカットします。写真の右から 2 つの部位(A)は、幅 3cm 程度、右から 3 つ目の長い部分(B)は幅約 6-7cm になるようにカットします。

(B)の部分は葉っぱのカービング、(A)の部分はバラの花のカービング用です。



(B)の部分を厚み 0.3cm 程度に切りわけます。



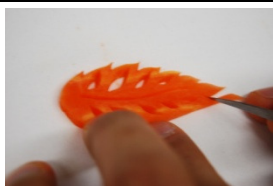
葉っぱの形を作ります。



葉っぱの中央に筋を彫ります。(二本の筋の端と端を合わせて、切り取るようにして筋をいれます。)



中央の筋の左右にアーモンド形の穴を彫ります。



葉の縁に切り込みをいれます。切り込み部分が、アーモンド型の穴から約 0.3cm 程度になるように、アーモンド形の穴にそってカットします。





完成！

バラの花のカービング

葉っぱに比べて少し難しく感じますが、バラの花は花びらの数が少ないため、慣れてくるとさほど時間のかからず簡単に彫れるようになります。

手順

	<p>(A)の部分の上部をおまんじゅうのように丸く削ります。</p>
	<p>丸く削った上部の中心点から外側に約 1.5cm の位置にぐるりと円形に切り込みをいれます。刃先を直角に、深さ 1cm 程度刺し込んで円形をつくります。</p>
	<p>円形の切り込みの 0.5cm 外側に、斜め 65° の角度に刃を入れ円形の切り込みに沿って、同じく円形の切り込みを入れていきます。1 つめの円形同様、深さは 1cm 程度です。2 本の切り込みが完成したら、切り込み間の果肉を取り除き、溝を作ります。(= 中央に芯ができます。)</p>
	<p>外周に、等間隔に 5 つの小さい切り込みマークを入れます。(バラの花びらを作っていく上での目安になります。) 芯に丸みをつけるため、約 100° の角度にナイフを入れて、ぐるりと一回りさせて、外側を切り落とします。(面取りをするようなイメージです。)</p>
	<p>芯に花びらを彫っていきます。芯の花びらは、外周につけたマークが花びらの中心の位置になるように作ります。1 枚目の花びらは半分だけ形作るため、マークと同位置に切り込みをいれます。ナイフの角度は 90° で、丸みのある花びら半分の形の切り込みをいれ、花びらの内側の果肉をそぎ落とします。1 枚目の花びらの半分が完成です。</p>
	<p>1 枚目の花びらの内側に刃を 90° に入れて 2 枚目の花びらを彫ります。2 枚目の花びらの内側の果肉をそぎ落とすと、2 枚目の花びらの完成です。同様に、5 枚目まで花びらを彫っていきます。1 枚目の花びらは、最初に彫った半分の花びらのナイフの跡に合わせるようにして形づくりします。 ⇒同様の手順で芯の内側に 2-3 段の花びらをつくっていきます。芯の外周に丸みをつける⇒1 枚目の花びらの半分の形を彫る⇒・・・5 枚の花びらを彫り、1 枚目の花びらに戻る。) 芯の部分はこれで完成です。</p>
	<p>外側の部分に花びらを彫ります。 ナイフを 45° の角度で使います。マークとマークの間に浅い W 型を彫るつもりで、波型の浅い曲線を 2 つつなげて彫ります。</p>
	<p>1 枚目の花びらを作ります。浅い W 型の 2 つの波型をつなぐ点が、1 枚目の花びらの始まりです。芯の時と同様、1 枚目の花びらはまず半分づくり、この花びらを浮き立たせるために外側の果肉を削りとります。3 つめのマークが終着点になるよう、大きくて浅い W 型の波型に、外側を切り取ります。1 枚目の花びらの半分が完成です。</p>

	<p>1 枚目の花びらの外側に 45°の角度に刃を入れて、2 枚目の花びらを作ります。3 つめのマークの位置が 2 枚目の花びらの端になるよう、大きく曲線を描いて彫ります。1 枚目と同様、2 枚目の花びらを浮き立たせるために外側の果肉を削り取ります。4 つめのマークが終着点になるよう、大きくて浅い W 型の波型に外側を切り取ります。2 枚目の花びらの完成です。</p> <p>同様に 3 枚目、4 枚目、5 枚目の花びらを作ります。</p> <p>最後に 1 枚目の花びらの片側部分を掘って、一番最初に彫った 1 枚目の花びらの切り込みと合わせたら、外側 1 段目が完成です。</p> <p>2 段目に入る前に、1 段目の花びらの外側(下部)を厚めにぐるりと切り落とします。ここから、刃の角度は 30°くらいに、寝かせるようにして使います。</p> <p>2 段目の 1 枚目も、1 段目と同様半分だけ切り目を入れるようにします。1 段目の花びらと交互になる位置から彫り始めます。1 枚目の花びらの半分ができたなら、1 段目よりも深い W 型を彫ります。(花びらの切り目も、W 型も、1 段目よりも 2 段目を厚く彫るようにして、立体感を出します。)</p> <p>以降、同様の手順で外側に向かって 2 段目、3 段目の花びらを彫ります。</p>
	<p>完成！</p>